

オーディオ再生上のやっかいな問題—その 1
—イコライザーカーブと位相—

オーディオを始めて 60 年ほど経ちますが、当時から不思議に思っていたことが、比較的納得のいく音質を示す PHILIPS 国内盤、ERATO 盤、harumonia mundi 盤のようなレーベルとそうでないドイツグラモフォン盤や LONDON 盤、CBS SONY 盤のようなレーベルがあることです。

イコライザーカーブの問題については、iFi の iPhono を導入し、Columbia カーブ、DECCA カーブ、RIAA カーブの選択を行っていましたが、位相の問題は考えていませんでした。

これらの疑問を解く契機になったのは、資料 1-A に示す吉田苑の試聴会における ZANDEN のデモでした。この時、TELDEC カーブのようなイコライザーカーブがあることを知り、また逆相で録音されている盤があることを知りました。その後、シマムセンで ZANDEN 製品の展示があることを知り、試聴を繰り返して、ZANDEN Model 120 を導入しました。この製品にはレーベル毎のイコライザー特性のリストが付属しており、これまで好ましいと思っていたレーベルは下記のようにイコライザーカーブが RIAA か、正相 N になっていました。反面鳴らしにくいレーベルはイコライザーカーブが RIAA 以外で、逆相 R になっていました。

PHILIPS 国内盤 : RIAA N

ERATO 盤 : RIAA R

harumonia mundi ドイツ盤 : TELDEC N

harumonia mundi フランス盤 : RIAA N

harumonia mundi フランス盤 : EMI N

一方、アキュフェーズのフォノイコライザーのバランス出力はデフォルトが 3 番ホットになっていますので問い合わせたところ、古くからのユーザーが多いのでそのようにしているとのことでした。

このことを確かめるために、資料のシマムセン訪問記(2024.10.18)の報告に記載のとおり、アナログ盤を持参して試聴を行い確認してきました。

一方、多くの試聴会では通例、資料のシマムセンオーディオ試聴会 (2024.10.20) 記載のとおり、イコライザーカーブや位相については触れられることはありません。

では、どのようなイコライザーカーブがあるかということですが、ZANDEN のフォノイコライザーのイコライザーカーブを資料 EQ カーブ規格・位相・第 4

時定数に、さらに時代を遡ったイコライザーカーブを資料 Old EQ 特性に示します。EQ カーブ規格・位相・第4時定数では、ZANDEN のフォノイコライザーで選択できるイコライザーカーブと位相切り替えとカットインヘッドの種類に応じた第4時定数の例も記載されています。

このような情報を基に手持ちのアナログ盤のイコライザー特性を調べてきていますが、最近の事例を資料のアナログ音源特性表 3 に示しています。レーベル毎、カットイン国毎、録音年代毎のイコライザー特性は通例公開されておらず、ZANDEN は、購入者に限って自社の調査結果をリストにして提供しているだけです。

一般に機器の方では、どのような対応をとっているかを、資料のステレオサウンド誌最新号記事フォノイコライザー26 機種徹底試聴要約に示していますが、高級機以外では RIAA の正相の対応に限られています。これに対し、盤毎のイコライザー特性についてはほとんど情報がありません。

例外的に、資料のソウルノウトのフォノイコライザーE-2の取扱説明書には、古いレーベル毎のイコライザーカーブの表が引用されており、1970年代までは、RIAAカーブ以外で録音されたレーベルがあり、RIAAカーブで録音されたレーベル以外では、逆相で録音されたものが多いとの記載もあります。

最近、ESOTERIC から資料のフォノイコライザーの Grandioso E1 が発売され、6種類 (RIAA、Columbia、Decca、NAB、Teldec、AES) の EQ カーブ対応が示されています。また、ソウリューションから資料のフォノ・プリアンプ「757」の発売案内があり、RIAA、Decca、Columbia、London、Teldec、NARTB の EQ カーブ対応が示されています。

以上から、多くの場合、いまだにイコライザー特性を合わせることなく聴いているのが実情と思われそうですが、今後は関心が高まるものと思われそうです。

【引用資料】

資料 1-A [吉田苑大阪試聴会 \(2019.10.20\)](#)

資料 1-B [シマムセン訪問記\(2024.10.18\)](#)

資料 1-C [シマムセンオーディオ試聴会 \(2024.10.20\)](#)

資料 1-D [EQ カーブ規格・位相・第4時定数](#)

資料 1-E [Old EQ 特性](#)

資料 1-F [アナログ音源特性表 3](#)

資料 1-G [ステレオサウンド誌最新号記事フォノイコライザー26 機種徹底試聴要約](#)

資料 1-H [ソウルノウト E-2 取扱説明書](#)

資料 1-I [ESOTREIC PRESS RELEASE](#)

資料 1-J [ソウリューション 新製品発売案内](#)

以上